大阪城
2021 5/20(木) 14166号
全港湾西成分会
ごんわ 6647-4947

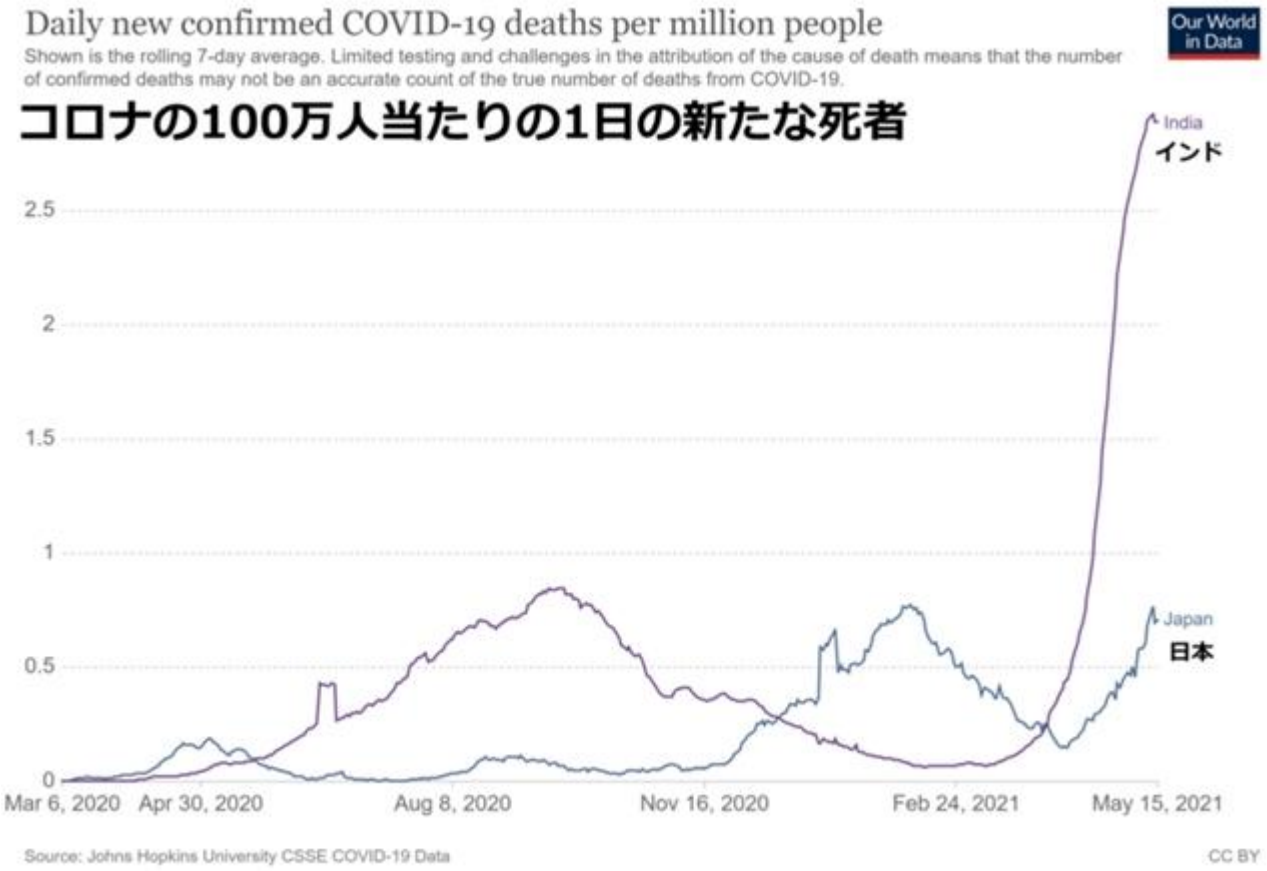
関西の梅雨は、今年は20日ほども早いという。うっとうしい空気の中で、アスベスト(石綿)の最高裁判決で、国の責任が認められ、確定したという。裁判は17年かかったが、そもそものアスベスト(石綿)の闘いは、もう50年以上も続いてきた。1960年、代末、ヨーロッパ・フランスの労働運動と学生、科学者たちの共同の闘争の中から、アスベスト(石綿)の危険性が明らかにされ、その波は日本の運動にもひきつがれた。ベトナム反戦闘争、全共斗運動のダメなことばかりが宣伝される中で、キラリと光る意義多い闘争である。

菅首相が、国の責任を認めたが、菅氏自身も、市議時代、横浜市行政の対して、全国の出稼労働者の労災安全対策や労働条件改善のために、行政交渉を準備し、闘った過去もあるわけであるし、その中には、アスベスト(石綿)の行政責任追求もあったわけで、国の安全衛生対策を世界一のものにしていくのが、政治家の仕事だろう。そして、今、コロナウィルス。両方とも肺に入り、肺の機能をこわし、死にいたる。国会もあと20日余り、「日本の一番熱い夏」が近づいてきた。

恐ろしい新型コロナ・インド変種株

対コロナ戦争の誇り高き勝利国インドを地獄に叩き落とした変異株　東京五輪は本当に可能なのか(木村正人ブログスより)

インド変異株と呼ばれるB.1.617系統の変異株はわずか数週間のうちにインドで優勢な株になり、イギリス、フィジー、シンガポールを含む約40カ国に広がっています。米フレッドハッチンソンがん研究センターのトレバー・ベッドフォード准教授（ワクチン・感染症）はB.1.617系統の変異株（赤色）が欧米でも急速に広がっている様子をグラフにしてツイートしています。



まだまだわからないことが多い新型ウィルス驚異的な感染爆発力に代わる